

2025(令和7)年度 実務事前実習報告

2025年度は89名(薬学科88名、専修コース1名)対象に、以下の演習および実習を行った。

【講義科目】

1. 医療とコミュニケーション学
 - ・ 前期に医療とコミュニケーション学の講義を行った。
 - ・ 7月15日の講義では、学外講師として大分大学医学部教授による講義を行った。
2. 症候学(講義科目)
 - ・ 前期に症候学の講義を行った。
 - ・ 9月16日の講義では、学外講師として薬局薬剤師による講義を行った。

【演習及び実習科目】

1. 臨床薬学演習

4年次

- ・ 2025年5月15日-6月18日、2026年1月19-20日にPBLチュートリアル方式の症例検討を行った。1症例につき2-3回のSGDと1回の発表会を行った後に、レポート作成を行った。
- ・ 1月20日の臨床薬学演習では、学外講師として病院薬剤師(がん指導薬剤師)が学生の発表に対するコメントと特別講義を行った。
- ・ 対象とした症例は、脳内出血、急性心筋梗塞、IgA腎症、B型肝炎、認知症、敗血症、小児てんかん、腎細胞がん、非小細胞肺癌、卵巣がん、食道がんであった(1学生は3症例を担当)。

1-3年次

- ・ 本学年は1年次よりPBLチュートリアル方式の症例検討を開始し、1年次は高血圧、2年次は心不全、3年次は2型糖尿病、慢性喘息の症例検討を実施した。

2. 実務事前実習

4年次

- ・ 9月16日-19日、12月2日に、学外講師として病院薬剤師(日病薬事業)、薬局薬剤師、製薬企業研究者、米国アリゾナ大学教授、3施設の大学病院薬剤師による講義を行った。
- ・ 医療面接や計量調剤などのオンデマンド教材(22本)を実習の予習と復習に用いた。
- ・ 9月29日-11月18日の期間で、次ページに記載する実習を行った。

<実施内容の概要>

- ① 処方解析及び疑義照会：模擬処方箋を用いて、処方解析を行い、処方箋に含まれる疑義について調査し、その解決案等を各自で考え、電話を用いた疑義照会を実施。
- ② 医療者への情報提供：オピオイド使用中の患者からの訴えに対し、薬学的介入案を計画し、模擬医師へ処方提案を実施。
- ③ 計数、計量調剤：計数、散剤、水剤、軟膏調剤の実施。
- ④ 調剤薬監査、持参薬チェック：処方箋及びお薬手帳に基づいて処方薬及び持参薬の確認を実施。
- ⑤ 無菌調剤：衛生的手洗い、ガウン・手袋の脱着、アンプル、バイアル製剤の無菌調製、TPN 調製、閉鎖式器具を用いた薬剤調製の実施。
- ⑥ TDM：抗 MRSA 薬投与模擬症例を用いて、ノモグラムや算出した PK パラメータを用いた解析、及び TDM 用ソフトウェアを用いた解析を実施。
- ⑦ DI・医療安全：薬剤誤投与事例について、原因や対策について SGD 及び発表を実施。
- ⑧ 院内製剤（講義のみ）：院内製剤の必要性や院内製剤の評価、事例の紹介。
- ⑨ 医療面接：薬局での初回面接と服薬指導（医療用医薬品、一般用医薬品）、病院での初回面談及び服薬指導（入院初日から治療計画立案まで）の実施。
- ⑩ 在宅での薬学管理：在宅患者を想定し、主に体調の確認、服薬状況及び薬識確認を行う面接のロールプレイを実施。
- ⑪ フィジカルアセスメントの実習：脈診、血圧測定、心音の聴診、呼吸音の聴診、浮腫の確認、酸素飽和度の確認。
- ⑫ 薬物投与手技：輸液ラインの組立、モデルを用いたワクチンの皮下及び筋肉内投与、インスリン自己注射の実施。
- ⑬ 褥瘡処置：褥瘡治療に用いる薬剤及び創傷被覆材の特性の説明、モデルへの塗布、創傷被覆材の貼付、洗浄方法の実施。

3年次

- ・ 本学年は3年次に実務事前実習の一部（1日目に無菌操作、2日目に薬局カウンターおよびベットサイドでの医療面接）を行った。

【薬学共用試験（OSCE、CBT）】

- ・ OSCE を2025年12月6日に、CBT を2026年1月6日に実施した。現在のところ共用試験受験者89名のうち、OSCE は88名が基準に達し合格となった。CBT は86名が合格となった。OSCE の再試験は2月17日、CBT 追再試験は2月27日に実施する。